

学校支援型

十日町市教育委員会

十日町市立吉田学校

実践のテーマ：栽培、収穫、提供の活動を通じて仕事の意味付けや価値付けができる子の育成

実践の概要：米や野菜の栽培及び収穫とその利活用を子どもの願いを大切にしながら進める。また、地域の人材や関係団体と連携協力することで活動を広げ、学びを深化させる。栽培、収穫、提供及び販売だけでなく収益の活用までを意図的に関連付けることによって、自分たちの活動が、様々な意味や価値を持つことを学ぶ。

単元名：（１・２年）すてきな なかま おやさいさん と おもてなし

計画・準備
(4月)

年間活動計画・・・「作った野菜で何をしたい？」子ども会議で目指すゴールを設定する。
「作る野菜は何？」「土作りはどうする？」等、栽培を始めるまでの準備をする。
畑づくり・・・地域の農家等に質問してアドバイスをもらう。協力を得ながら土づくりに参加する。
苗の準備・・・地域の農園で良い苗の見分け方や野菜作りのポイントを学び、買い物体験をする。

栽培活動
(5月～8月)

夏野菜栽培・・・生長の様子や問題点の発見など、観察を通して様々な気づきを得る。
問題解決・・・健康な野菜を育てるため、問題点を共有、解決策を話し合う。
＊鳥・獣の被害、対策害虫対策、天気対策 etc.
調べ活動・・・ICTを活用したり、地域の農家に相談したりしながら、野菜の健康を守る。
企画運営・・・夏野菜カレーレストランを開き、保護者を招待、調理し、共に収穫を喜び、味わう。

まとめ
(9月～12月)

豆等の栽培・・・夏野菜の栽培活動で得た知識をもとに、小豆と大豆、トウモロコシを栽培する。
収穫活動と計画・・・収穫した作物を、あんこときな粉、ポップコーンにして地域の方に振る舞う。
大収穫祭・・・協力いただいた方々、保護者や地域住民を招待し、栽培活動の成果を伝えた。
ふり返し対話・・・栽培活動を振り返り、達成したこと、自他の成長、今後への思いを共有する。



<成果>

- ・仲間と協力し、少人数でも根気強く取り組み、目標を実現できた。
- ・協力いただいた地域の方への感謝の気持ちが芽生えた。

<課題>

- ・子どもだけではできない作業を地域ボランティアから支援いただくために実際の活動の状況を把握し、見通を持って連絡調整していく。

単元名：（3・4年）「吉田の自然を大調査！」「さつまいもを育てよう！」

自然環境を
学ぼう

1. 貝沢川の生き物を調査しよう
元キョロロ館長の村山暁先生と貝沢川の生き物調査を行う。
2. ホタル観賞会を開こう
①ホタルについてもっと知ろう：ホタルの生態について、村山暁先生から学ぶ。
②ホタル観賞会に向けて準備しよう：貝沢川の生き物やホタルの生態についてロイロノートにまとめる。鑑賞会に向けたPR活動、会場づくり等の準備を行う。
③ホタル観賞会：貝沢川の生き物、ホタルの生態などについて学んできたことを発表する。山谷保全会の方から、吉田地域の環境を守るための取組などを教えていただく。

3. さつまいもを育てよう
さつまいもの苗植えを行う。

さつま芋を
栽培しよう

4. さつまいもを収穫しよう
全校芋ほり収穫の計画、会の進行などを行う。
5. さつまいもをおいしく食べよう
①やきいもパーティーをしよう：全校に美味しいやきいもを食べてもらうため、芋を焼くためのもみ殻運びやホイルに包むなどの下準備を行う。
②収穫祭で大学芋をふるまおう：大学芋のレシピ調べ、試作品を作る。大学芋ブースの看板等の制作をする。
6. これまでに取り組んできたことを発表しよう
ホタル学習とさつまいも栽培について、これまでに取り組んできたことをまとめ、他校の3・4年生に紹介する。

販売活動に
挑戦しよう

7. 販売活動に挑戦しよう
収穫したさつまいもを干し芋に加工し、販売する。加工は、(株)Woman farmers Japanに依頼する。
①干し芋加工の様子を知ろう：(株)Woman farmers Japanで行っている干し芋加工の様子を見学する。
②販売の仕方やパッケージデザインの仕方などをプロの方から教えていただく。
8. 活動のまとめをしよう
これまでに取り組んできたことをロイロノートにまとめる。



<成果>

- ・「これをやってみたい」「こうするともっとよくなる」などの自分の思いをもって意欲的に活動に取り組む様子が多く見られるようになった。
- ・生き物採集、デザイン、調理活動など、それぞれの得意なことで活躍できる場ができ、自己有用感が高まった。

<課題>

- ・さつまいも栽培では、地域の人と関わることがほとんどできなかった。どのタイミングで地域の人と繋がれるか考えるためにも先々まで見通しをもつ必要がある。
- ・「これをやってみたい」などの児童の思いをなるべく実現できるようにに事前の準備を計画的に行う。

単元名：（５・６年）米作りを通して起業家精神を学ぼう！

ベース

アクション

ブラッシュ
アップ

- 1 米作りの現状を知ろう！
JA魚沼の職員の方から、十日町市の米作りの課題について学ぶ。
- 2 米作りの課題に立ち向かっている方から学ぼう！
【パート1】耕作放棄地を減らそうと奮闘している村山土建の社長さんから学ぶ。
【パート2】暑さに強くしかもおいしい品種の研究をしている石川さんから学ぶ。
【パート3】パックご飯を製造・販売(株)テーブルマークから学ぶ。
- 3 起業について学ぼう！
(株)Woman farmers Japan代表の佐藤さんから、「起業とは新しい価値を生むこと」「仕事とは、自分の長所を生かして、自分・相手・世の中を幸せにすること」と学ぶ。
- 4 自分の長所を生かした会社をつくろう！
自分の長所は何かを考え、その長所を仕事にする会社をつくる。
- 5 会社活動しよう！
【パート1】学校ののぼりづくりの挑戦！：デザインが得意な会社を中心にのぼりのデザイン画を作成する。
【パート2】YOSHIDA祭で販売活動に挑戦！：会社同士で協力し、アイデアを出し合いながら、準備を進め、自分たちで作ったちんころをフリーマーケットで販売する。
【パート3】大収穫祭を企画・運営・実行しよう！：会の進行、餅つき・トン汁・おもてなし茶屋の運営、それらに関わる準備を行う。
- 6 品質のよさを保証してもらおう！
JA魚沼の検査員の方から、全校で田植えをし稲刈りをし収穫した米を検査してもらおう。その結果を販売活動に生かす。
- 7 会社活動しよう！
【パート4】雪まつりで販売活動に挑戦！：コシヒカリ・こがねもち・ちんころを雪まつり会場で販売する。
販売の仕方やパッケージの作り方を、プロから教えていただく。
- 8 会社活動の報告会をしよう！
1年間の活動をロイロノートにまとめ、学習参観時に、保護者に発表する。

☆生産者の気持ちを知ろう！
(4月～11月)
地域の方・保護者の方に協力して
いただきながら、コシヒカリとこ
がねもち作りに取り組む。



<成果>

・1人1会社にすることで、自分から進んでアイデアを出し、実行する姿が多く見られるようになった。また、担任に頼らず自分たちで考え、活動を進めることができるようになった。
・活動を通して学んだことや反省を次の活動にどう生かすか具体的に考えるなど、よりよい活動にしようと、前向きに検討することができるようになった。

<課題>

・「この人から学びたい。」という要望を児童から引き出し、それを実現していくようにする。
・保護者への協力依頼など、担任が担っていた部分を児童ができるようにすることで、より主体的な実践にしていこう。